

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	2892200706		
法人名	株式会社ニッケ・ケアサービス		
事業所名	グループホーム ニッケとして加古川式番館		
所在地	兵庫県加古川市加古川町本町239-1		
自己評価作成日	令和6年2月11日	評価結果市町村 受理日	令和6年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	令和6年2月12日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	項目	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人様が今できることを大事にし、出来ないところをサポートさせていただき、できる事したい事を見つけて穏やかにくらしさせるような支援を心掛けています。施設の周辺は静かで公園や神社、保育園も近くにあり少しの時間でも外気に触れていただけられる様に天候、体調をみながら気分転換を図っています。コロナが落ち着いてからは外出クアやユニット合同のレクも開催しています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】24時間医療体制が整備されている。夜間の急変など主治医に連絡ができる体制が整っている。同敷地内に介護事業所が多くあり運営に関する連携が図れている。環境面:設立3年であり新しい建物で広々とした空間の共有空間。  
【工夫点】職員を育てる取り組み:サンキュー報告書から「気づいてくれてありがとう」を目的に毎月約30件のヒヤリハットの提出がある。R6.1家族の会を開催:同敷地内の地域密着型サービス事業者合同での開催。多くの家族や利用者様と情報交換や茶話会を行った。

# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己評価 第三者	項目	自己評価	実践状況	外部評価
		実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づき運営</b>				
1	(1) 〇理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新入職員などにははじめてとて式番館の説明実施する時に理念を説明して共有を実施している。	当事業所の事業所理念を作り新入職員等に理念を説明し、共有化を図っている。	事業所玄関内のスペースに運営理念を張る等し全職員や訪問の家族等に共有できる配慮が望まれます。
2	(2) 〇事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な散歩など外に出た際に地域の方に出会った時は挨拶している。 今年度はニッテ感謝祭に地域の方が来られている場に利用者様も参加していただきました。	利用者の散歩等外出した時等地域の人と出会った時に挨拶や又今年度はニッテ感謝祭に地域の方がこられている場に利用者も参加し地域の一員として交流を図っている。	
3	〇事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生や高校生にトライやるウエークやインターンシップ実施する中で認知症について話したり、認知症の方との接し方など伝え活かしている。		
4	(3) 〇運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催させて頂き市の方や地域包括の方、民生委員の方と意見交換を行いサービス向上に取り組んでいる。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、市や地域包括職員、民生委員等参加して戴き意見交換を行いそこでの意見等サービス向上に活かしている。	事故数は、ヒアリング数は、プログラフを作成し、玄関内の目立つ場所に掲示し安全な事業所である旨の実施が望まれる。
5	(4) 〇市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスを取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故や救急搬送したことなどがあれば報告実施し、不明点があれば連絡させていただきます相談に乗っていただきます。	事故や救急搬送したことなどがあれば報告し、又不明な事があれば市町村担当に連絡し相談に乗ってもらい協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5) 〇身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準」における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないを前提に3ヶ月に1度ミーティングの際に身体拘束廃止委員会を行い研修を実施している。玄関施錠に関しては法人の考えの下施錠している。	3ヶ月に1度のミーティング時に身体拘束廃止委員会を開催し身体拘束にかかわる研修を実施している。玄関施錠は法人の考えに従って施錠している。	
7	(6) 〇虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関しての研修を実施し、自身の介護の仕方を振り返り、職員同士で話し合い注意を払い、防止に努めている。	虐待防止に関して身体拘束と同様に研修を実施し、自身の介護の仕方を振り返り職員同士で話し合い注意を払い防止に努めている。	

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
8	(7) 〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護の研修は実施したが成年後見制度対象の方はおられず、昨年度は実施したが今年度はまだ学ぶ機会を取れていない。	権利擁護の研修は本年1月に実施した。成年後見制度対象の方はおられず、但し昨年度は実施したが今年度はまだ学ぶ機会を取れていない。		
9	(8) 〇契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はやめ改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけ、わかりやすく説明することを意識し事例などを挙げながら実施している。契約後も不明点等あればいつでも気軽に聞いてくださると伝えている。	契約時には時間をかけ、わかりやすく説明することを意識し事例などを挙げ面会や外泊や外出の可否等も説明し理解・納得を図っている		
10	(9) 〇運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で意見や要望を聞かせて頂いている。家族様には来訪された際や電話連絡の際、担当者会議などで意見や要望を聞かせていただいている。1月に家族会を実施。外部者には運営推進会議で機会を設けている	1ヶ月1度ミーティング実施し、日常生活の中で意見や要望を聞き、又家族には訪された際や電話連絡の際に担当者会議で出た意見や要望を聞かせてもらい、1月に家族会を実施。外部者には運営推進会議参加の機会を設けている。		
11	(10) 〇運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月1度ミーティング実施し、その中で職員の意見や提案を聞く機会を設けて反映させています。	1ヶ月1度ミーティング実施し、入浴の時等職員の意見や提案を聞く機会を設けその内容を運営に関する職員意見として反映している。		
12	〇就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各目が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度にて評価されています。			
13	〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の月1度の研修会に参加できるようにしている。ミーティングの中でも研修会での共有を実施している。法人外での研修にはケアマネや職員にも参加してもらえるように働きかけています。			
14	〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の際に外部講師に福祉用具専門の方をお呼びし研修していただいたり、2月に管理者が外部に介護技術研修に参加し事業所で共有しサービスの質を向上させていく取り組みをしている。			

自己第3者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	入居前には本人様とお会いし、困っていることや要望等お聞きし関係づくりを努めている。			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている	サービスを導入する前段階で家族様には困っている事や要望等を話し合い関係づくりに努めている。			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等がその時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様の意向や要望を聞き、その時に必要としている支援を考え対応に努めている。人、要望の内容により他サービスの紹介を行う事もある。			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	上げ膳据え膳ではなく、出来る事は時間をかけてでもしていただき出来ない事を支援し関係を築いている。			
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会などで来られた際は普段の様子を伝えている。なかなか来られず、家族様には適宜電話連絡を実施し、機会があれば来訪していただく様に伝えられている。月に1回本人様の様子を状況報告書として送付している。			
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を実施し本人様の馴染みの人との関係が途切れないよう、支援に努めている。			
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、孤立しないように席替えや気の合う方と過ごせるように支援し努めている。			
			事前に電話での予約のもと面会が再会されました。地域に暮らす家族や馴染みの知人が事業所を訪れる自室で過ごされます。また外出や外泊は制限なく行えるようになりました。お誕生日や法事など家族と一緒に過ごされています。		

自己 第三者	項目	自己評価 実践状況		外部評価 実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
		出来ていない。				
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている					
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人様の希望や意向を把握できるようになっている。希望を叶える為の仕組みもあり、叶えるように努めている。困難な場合は家族様と考え検討している。	日々の関わりの中で声を掛け、会話の中で意向を聞き取ります。言葉にしづらい想いを日々の行動や表情から汲み取りそれとなく確認するようになっている。家族に聞きながら本人にとつてどのよう暮らしすることが最良なのかで検討している。			
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時情報を基に支援していくが、本人様や家族様から今までの生活歴や暮らし方、これまでのサービス利用の経過等をお聞きし把握に努めている。				
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は出勤したら本人様連に挨拶をし表情や体調確認し申し送りなどで現状の把握に努めている。				
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様との普段の会話や生活を基に職員間で本人様の問題点、課題を共有、話し合い本人様、家族様と担当者会議を開催しケアプランを作成している。モニタリングについても1ヶ月1度実施し家族様に状況報告書として報告しています。	本人様の状態は刻々と変化します。利用者の視点にたち利用者主体の計画作成を展開している。担当者会議を開催する場合は、本人様も参加し計画作成者及び職員の意見を反映しケアプランを作成しています。			
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、共有をし介護計画の見直しに活かしている。 ミーティングの際にも長期・短期目標の更新が近づいてる方の情報共有し介護計画見直しに活かしている。				
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者又は家族の意向により、利用者個人の趣向等のため職員が個別に介助等を受けられることが出来る自費サービスがあるがまだ利用はない。				

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア依頼させていたいただき利用者様に楽しんでいただける機会を設けています。			
30	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に今までのかかりつけ医にするか提携医に変更するか確認している。施設看護師、提携医と連携し、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所提携医による24時間体制が整備されている。月2回第1・3水曜日に往診を受けている。歯科の訪問診療を希望される方は対応できます。定期的にクリーニングケアを受けられる方もいます。耳鼻科へ通院時など家族様の送迎で通われます。		
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で気付いたことなどは看護師に報告し適切な医療を受けられるように支援している。			
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は医療機関に介護サマリー提供している。入院中には担当のソーシャルワーカーに様子など確認し情報共有し努めている。	入院時は、入院によるダメージを極力避けるために提携医に報告しながら進めます。入院の目的をいち早く伝えられるように介護サマリーを提供している。最終排便や夜間の状況等伝えていく。病院地域連携室ソーシャルワーカーと電話等で情報共有を図っている		
33	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行うことができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の際に重度化した場合の指針を説明し同意をいただいている。終末期前には本人様、家族様と話し合いの場を設けている。	本人様や家族と意向がずれれたままに重度化を迎えることのないよう早期から話し合いの機会を持つ。入居契約時には「重度化した場合の指針」をもとに現段階での意思確認をおこなっている。事業所として対応し得る最大のケアについて説明を行っている。看取り時は主治医を中心に随時意志を確認しながら取り組んでいる。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを各ユニットに掲示している。今年度は法人内の内部監査で緊急時の対応について監査実施し急変や事故発生時対応の実践力を身に付けた。			
35	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を利用者様と実施している。加古川消防署の方に来ていただき消火器使用方法について学ぶ機会があった。2月には水害対策の訓練実施予定。	年2回の消防訓練を利用者様と実施し、加古川消防署の職員にきていただき消火器の使用法について学ぶ機会を得た。また2月に水害対策訓練の実施を予定している。		

自己第三者		項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの仕方や本人様の名前の呼び方に気を付けて対応している。 申し送り時などは他者の前で本人様を傷つけない様に職員間での発言に注意している	人前であからさまに介護したり、声掛けで本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。職員が利用者に発している言葉の内容など、日常的に確認し改善に向け取り組んでいる。新人教育など事業所として計画的に学ぶ機会を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中でしたいことや食べたものの、行きたいことなどお聞きし反映できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	出来るだけ意向を聞くようにしているが職員ペースになることもある。		
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	更衣時や入浴準備の際は服を選んでいただいている。困難な方には2つの中から選んでいただくなど工夫している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前にはメニューの紹介をしたり、米どぎや合拭き、食事の盛り付けなど手伝っていただけるように支援している。	食事を楽しむために利用者さんと相談しながら食べたいメニューなど意向聞き取ります。「楽しむ」のためのアイデアの取り組みでは、意見をボストイットに記入し事務所ホワイトボードに貼り付けます。大みそかのカレーライスを、5月バーベキュー、巻きずしなど調理シケに繋がりますイベントとして楽しませています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に合わせた支援をしている	管理栄養士監修の献立である。 一人一人に合った食事形態、ご飯の量などを把握して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に合わせた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施。必要に応じて訪問歯科とも連携している。		

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を促せる様に本人様の排泄リズムや習慣を把握するように声掛けし支援している。	トイレでの排泄をするために、本人様の生活リズムにそった支援に努めている。フロアにはパソコン或いはタブレットを活用しご本人の排泄状況を都度入力している。身体機能やご本人様の能力に合わせ手を差し伸べたり、移動介助をしている。ひとり一人の状況やパターンを全職員で把握し対応している。		
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響は理解しているが内服薬に頼り切ってしまう。家族様に野菜ジュースを依頼したり日々の体操は実施している。			
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ユニットにより入浴日、時間は日中帯と決まっていますが本人様のペースに合わせて希望や体調を考慮して実施している。体調等で入浴できなかった場合でも別日で対応しています。	週2回ユニット毎に入浴していただきます。体調やご本人様の希望に合わせて午前午後の予定を午後からに変更することもあります。車いす利用されている方もおられリフト浴など活用し安楽に湯船に浸かっています。洗顔や化粧水などその方の好みを尊重します。		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の眠くなってきたタイミングで休んで頂いています。日中にも傾眠などあれば声掛けし本人様の意向に沿い居室で休んでいただくように支援しています。			
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的、副作用の理解については低いと感じる。薬の変更があった際は本人様の様子など記録に残すように努めている。			
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何か一つでも役割を持っていただけれるように一人一人ができる事を把握し支援しています。気分転換に自室で過ごして頂いたり、少し外に出てみるなどの支援をしています。			
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、雪限は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩や施設の外に少しでも出るように努めている。家族様と外食や外泊される方もおられます。	一人ひとりの楽しみごとに合わせて少しでも外に出る機会が持てるように支援している。家族様との外出や外泊は制限なく行えるようになりました。日常的には職員と3名でのお散歩や、R5.5再開されたニッケ感謝祭に希望者で参加されました。鶴林寺へのお出かけも行われました。来期予定を検討されている。		



自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望やカにに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	していない。			
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様自身から家族様と話したいと言われた時は電話で話せるようには努めている。			
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁に季節に合わせた壁画を利用者様と作成し掲示したり、カレンダーを掲示したりし季節を感じていただけに努めている。	共用の空間ではフロアの壁に季節に合わせた壁画を利用者様と作成、掲示し又カレンダーを掲示し季節を感じていただけに努めている。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットを分断して使用できる構造になっているので食席、ソファ一席で気の合った利用者様同士で思い思いに過ごせるように工夫している。			
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に関してはできる限り本人様、家族様で話し合い、使い慣れた物や愛着ある物を持参していただけているようにしている。	居室に申し出るだけ本人や、家族と話し合い使い慣れた物や愛着ある物を持参してもらうようにして本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内には一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。			